

The Hidden Terrace House

街中に潜むテラス

外の視線から守られた、壁に囲まれたテラスは
家族が心置きなく過ごせるプライベート空間。
季節の移ろいを感じながらコーヒーを味わったり
子どもと水遊びをしたり
時にはソファに座って昼寝をしたり。
窓を開け放てば内と外がシームレスにつながって
家族だけの特別な週末が、始まります。

BlackPepper

SPICE UP YOUR LIFE WITH
MIDHAUS & GARAGE, SHOP, STOCK



テラスまで視線が抜け、面積以上の広がりを感じる。キッチンがオーク材と左官材で家具のようにデザインし、シンクとテーブルを一体に。ダイニングからもテレビが見やすいように、ソファはローバックのデザインを選んだ。



「最近が高気密・高断熱住宅が当たり前ですが、外で食事をしたり子どもと遊んだり、風や日差し、季節を体感する暮らしは豊かですね。室内も屋外も両方楽しむ、そんな暮らし方を提案しました」と話します。

外で遊べるスペースがほしかったんです」とIさん。しかし敷地は二方を道路、二方を隣家と畑に囲まれ、風景を取り込みにくい立地でした。

そこで竹内さんは「内なる外」を

テーマに、壁で囲んだテラスを設計。

約30㎡と部屋のように広く、リビングの掃き出し窓を開け放てば、室内外が一体につながります。

「最近が高気密・高断熱住宅が当たり前ですが、外で食事をしたり子どもと遊んだり、風や日差し、季節を体感する暮らしは豊かですね。室内も屋外も両方楽しむ、そんな暮らし方を提案しました」と話します。

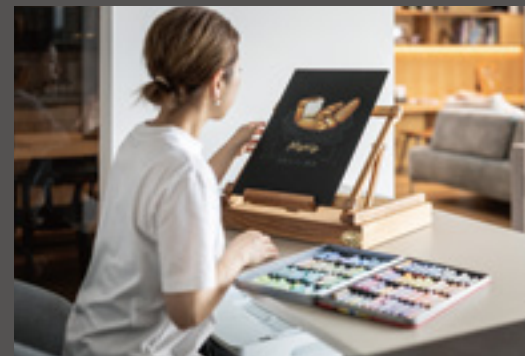
購入した敷地は120坪とゆとり

の広さ。「パーベキューやブルなど

リビングの延長になるテラス

幹線道路から一本入った、緑豊かな住宅街。箱を重ねたようなモダンなシルエットと西海岸を思わせるロックガーデンが、I邸の目印です。

Iさんは奥様と長女との3人暮らし。ブラックヘッバーに設計を依頼したのは、デザイン性はもちろんデザイナー・竹内恵二さんの断熱性能に関する豊富な知識も理由でした。





ダイニングに座ると、リビングのスタディコーナーやテラス、ワークスペースまで見渡せる。住まいの東側にバスルーム、ランドリー、ウォークスルー・クローゼットを一直線に配置し、キッチンの両端に出入口を設けて回遊動線に。



キッチン東側は、家族3人の衣類を収納できる広いウォークスルー・クローゼット。一角に洗面カウンターを設けて身支度をしやすく。

アートや美容分野で活動する奥様は、自宅が仕事場。ゆくゆくは、住まいでワークショップを開くことも計画しています。大人数に対応する広いエントランスの近くにワークルームを配置し、家族とゲストの動線を分けて設計。屋外でもアートの制作ができるよう、ワークルームから直接テラスに出入りできるようにしています。ワークルームとLDKの間はガラス張り、仕事でも家族の気配を感じられるのが嬉しいところ。

洋服やレコードを多く所有する夫婦の希望を反映したのが、たっぷりとした収納です。エントランスからダイニングに続く通路4.5 mの壁全面にクローゼットを造作し、パントリー兼リビング収納に。LDKの東側は、家族3人の洋服を収納するウォークスルー・クローゼットです。ハイスайдライントから光が差し込み、洗面スペース、バスルームと直線でつながっているため、朝夕の身支度もスムーズ。LDKから水周りへの回遊動線のおかげで、奥様は仕事をしながら効率的に家事を進められます。

ゆとりある収納と回遊動線で
毎日をもっと豊かに



敷地の高低差を生かしてアプローチは階段状に。庭もブラックペッパーのデザイナー・竹内恵一さんが手掛けた。竹内さん自ら採石場に足を運び厳選した、柔らかな色合いの信州志賀石のロックガーデンに、ドライな植物を合わせた。

庭と建物を一体にデザイン

インテリアはシンプル&モダンをテーマとし、オーク材を中心にコーディネート。「リビングにアクセントがほしい」というリクエストに応え、ヘリンボーンをあしらった壁が空間のスパイスになっています。

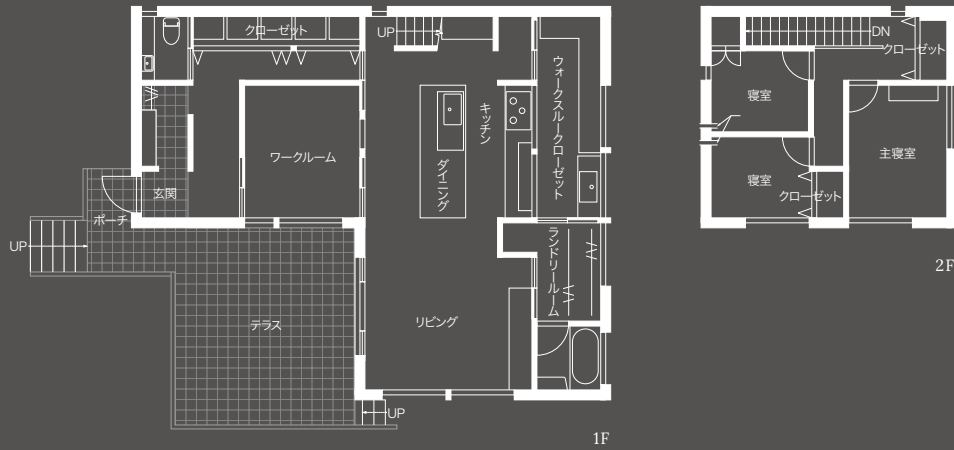
印象的なのが、オーク材と左官材で家具のようにしつらえたオープンキッチン。テーブルと一体で設計したシンクで、家族と会話しながら料理や洗い物ができて、小さなレストランのように楽しい雰囲気です。

住まいを正面から見ると、3つの



ポリュームとテラスの壁が連なる構成が奥行きを演出し、室内への期待感を高めます。アプローチの庭も竹内さんが設計。建物と外構のデザインを統一できるのも、Iさんがブラックペーパーを選んだ理由でした。佐久産の信州志賀石とドライな植物を組み合わせ、モダンなファサードに個性を添えています。

「夜は階段がライトアップされてとてもきれいで、家に帰るたびに嬉しくて」とIさん。室内外ともに美しく、おおらかな空気に満ちた住まいです。



BlackPepper

株式会社 BlackPepper

本社・長野オフィス

〒381-0043 長野県長野市吉田 5-18-25 SUBURBAN Telephone 026-219-2489



自宅でワークショップを開くことを想定して、エントランスとホールはゆったりと設計。ゆとりある通路幅、白を基調にした空間、視線を巡りつつ自然光を取り込む開口計画によって、閉塞感を感じさせない設計。